

コニカミノルタ株式会社
2021年3月期（2020年度）第3四半期
決算説明会

専務執行役 大幸 利充

2021年2月2日

■ 20年度3Q業績の総括

- ✓ 想定通り営業利益、当期利益ともに黒字化
- ✓ キャッシュ創出力も大幅に改善、QoQでFCF黒字拡大
- ✓ 成長の柱であるITサービス/WPH、インダストリー、ヘルスケアが増収
- ✓ 四半期販管費1,000億未満を3四半期継続

■ 20年度通期業績見通し

- ✓ 業績見通し・配当予想は据え置き
- ✓ FCFは上方修正、14年度以来の年間実質黒字の見通し
- ✓ 事業×地域×顧客で伸びる分野にリソースを集中。事業間バランス見直し
- ✓ 四半期販管費1,000億円未満維持に注力

20年度第3四半期業績の総括

【億円】	2020年度 累計	2019年度 累計	前期比	為替影響を 除く前期比	外部・特殊要因 を除く前期比	2020年度 3Q	2019年度 3Q	前年 同期比	為替影響を 除く前年同期比	外部・特殊要因 を除く前年同期比
売上高	6,149	7,470	△ 18%	△ 17%	+ 1%	2,302	2,495	△ 8%	△ 7%	+ 3%
営業利益	△ 246	106	-	-	-	33	51	△ 36%	△ 56%	+ 116%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	△ 206	22	-	-	-	16	21	△ 22%	-	-
FCF	78	△ 266	-	-	-	149	△ 80	-	-	-
為替レート(円) USドル	106.1	108.7	-2.6			104.5	108.8	-4.3		

3Q 売上高

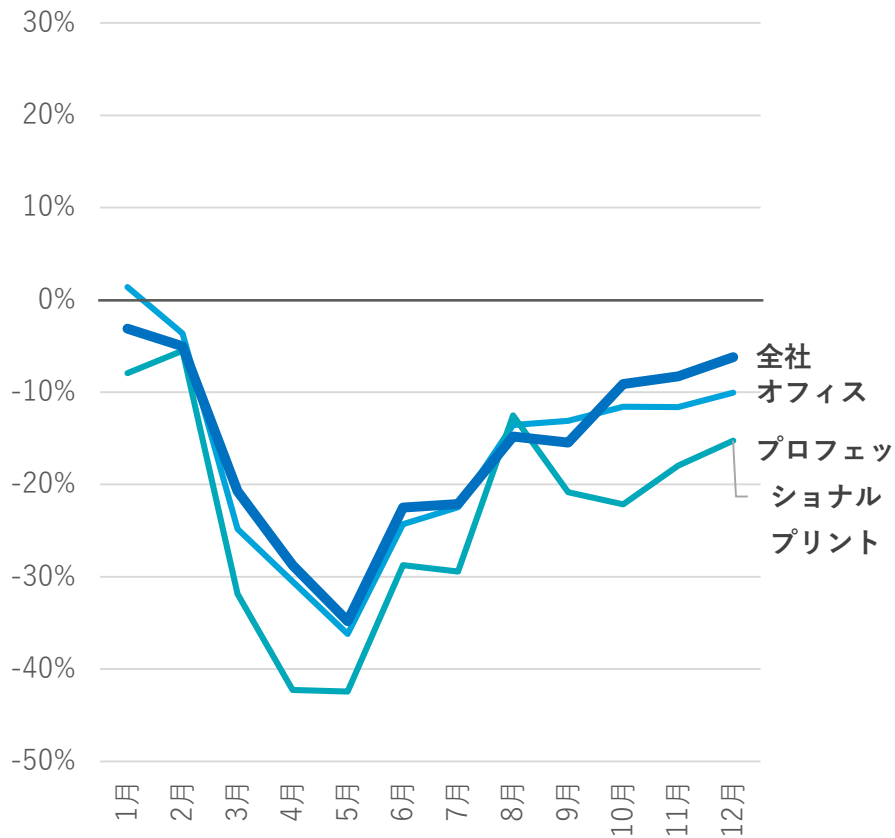
- 全社 : 需要回復と成長領域での増収で、対前年1Q▲28%、2Q▲17%、3Q▲8%と縮小。
- 事業別 : ITS/WPH、ヘルスケア/プレジジョンメディシン、計測機器/機能材料/
画像IoTソリューション/映像ソリューションが増収。他事業もQoQでは増収。
- 地域別 : 中国、日本、その他アジアが増収、欧州は9割弱維持、米国は8割強に回復。

3Q 営業利益/ 資本効率

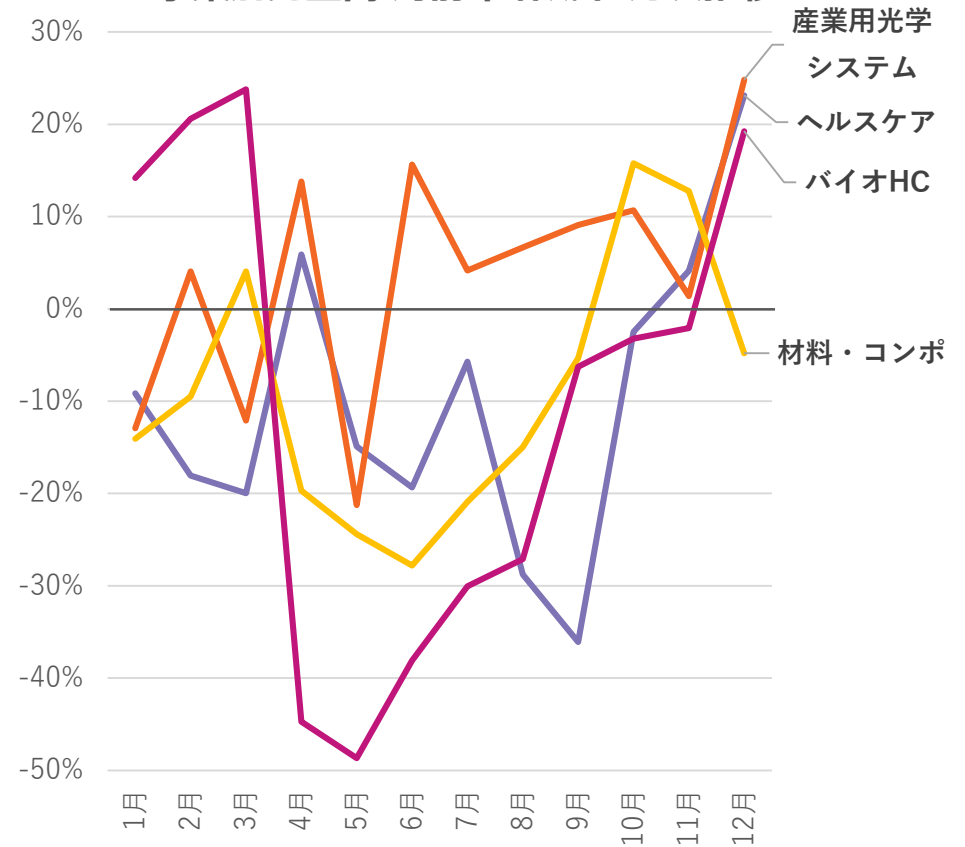
- 営業利益 : 事業ごとの強弱はあるが、2Q決算時の想定通りに回復し、黒字化。
- 収益構造 : 売上総利益（粗利）率は製品販売ミックスの影響が残るもQoQで2.6pt改善、
販管費1,000億円未満を継続。追加構造改革に着手、一部費用計上。
- 資本効率向上、手元流動性確保 : 当期利益黒字化、在庫回転日数減などによりQoQで営業
CF黒字拡大。成長に必要なM&Aを実施しながら設備投資抑制継続しQoQでFCF黒字も拡大。

3Qに入り各事業で強弱が出ているが、全社としては5月をボトムとした回復基調が継続。
 ※旧セグメントで記載

全社・事業別売上高 対前年増減率 月次推移



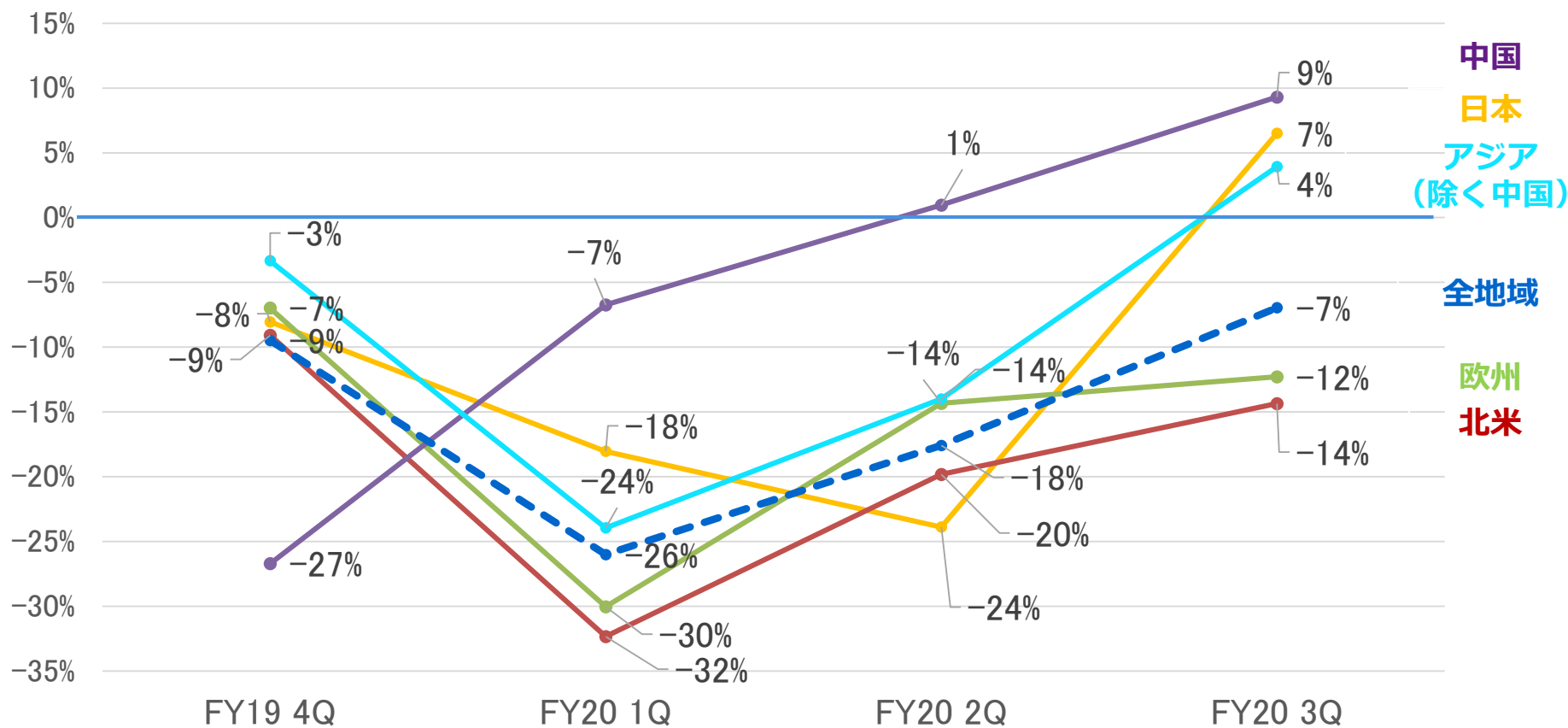
事業別売上高 対前年増減率 月次推移



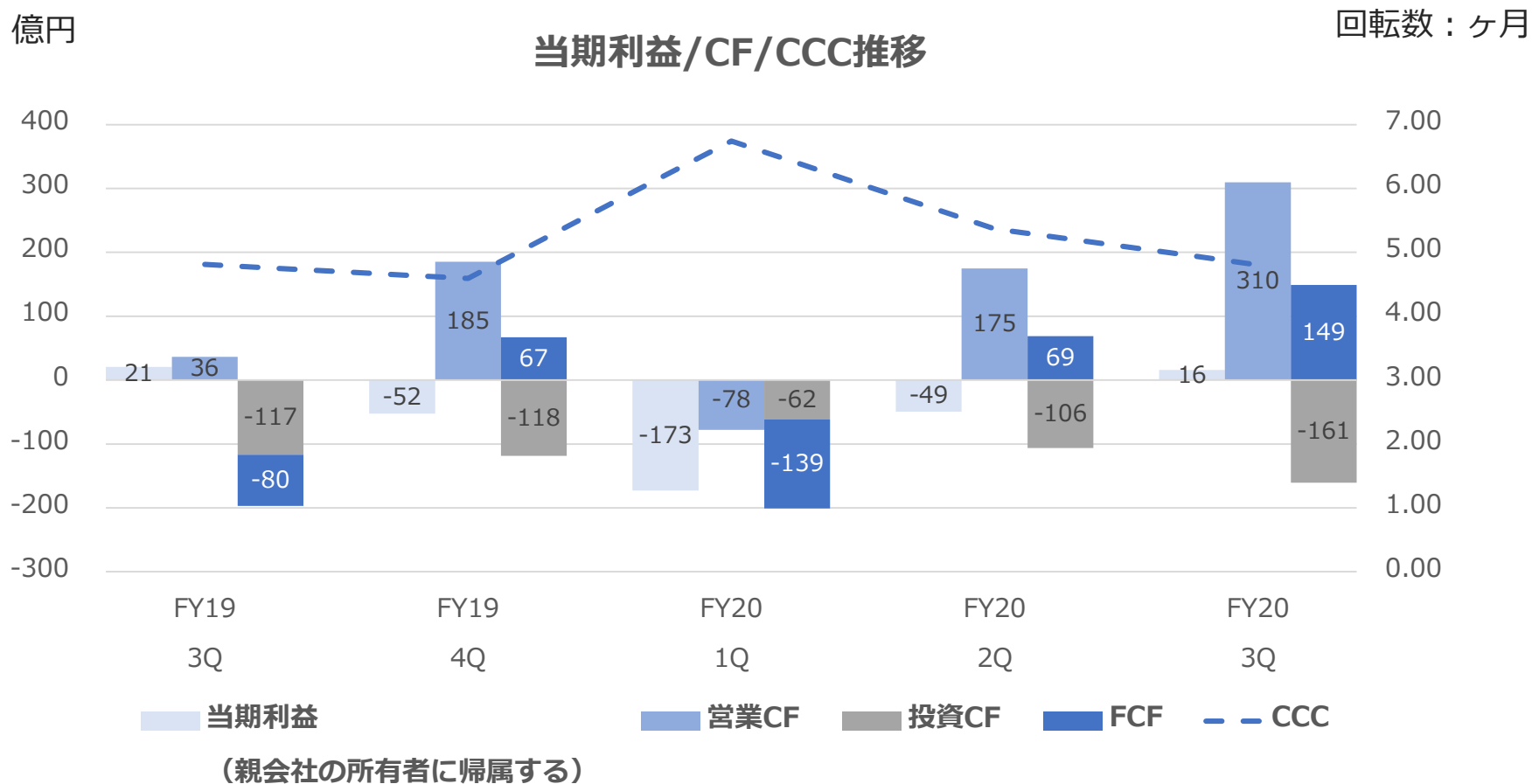
※ ヘルスケアの8-9月の減収は前年消費税増税前駆け込み需要の反動減

19年4QにCOVID-19の影響を最も強く受けた中国経済が急速に回復したのに呼応し、中国・アジアに大口顧客を持つ事業がけん引、欧米以外の仕向けは3Qには前年比増。

地域別売上高（現地通貨ベース）対前年増減率推移



1Qをボトムとした当期利益の回復・黒字化に加え、在庫適正化を主としたCCC改善により営業CFを拡大、成長投資を実行した上でFCFの黒字化と拡大を加速。



2Qに黒字転換したデジタルワークプレイスは黒字幅を拡大、プロフェッショナルプリントはプロダクションプリントの黒字転換によりほぼブレイクイーブン。2Qに黒字のヘルスケア（画像診断機器/医療IT）は黒字幅を拡大し、プレジジョンメディシンも赤字幅縮小。インダストリーは1Qから黒字継続、3Qは機能材料がけん引して黒字幅を大きく拡大。

【億円】

売上高	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	QoQ
	通期	通期	同期比	除く前期比	を除く前期比	3Q	3Q	同期比	除く前年同期比	を除く前年同期比	2Q	
デジタルワークプレイス事業	3,363	4,136	△ 19%	△18%	+0%	1,250	1,395	△ 10%	△10%	△1%	1,167	+ 7%
プロフェッショナルプリント事業	1,188	1,587	△ 25%	△24%	△0%	453	554	△ 18%	△17%	+5%	417	+ 9%
ヘルスケア事業	736	856	△ 14%	△12%	+9%	282	259	+ 9%	+12%	+29%	249	+ 13%
インダストリー事業	855	883	△ 3%	△2%	+10%	315	285	+ 11%	+11%	+17%	279	+ 13%
センシング	227	205	+ 11%	+12%	+19%	80	73	+ 10%	+10%	+12%	76	+ 6%
材料・コンポーネント	541	604	△ 10%	△10%	+6%	205	189	+ 8%	+9%	+17%	176	+ 17%
画像IoTソリューション	87	74	+ 17%	+18%	+22%	30	23	+34%	+32%	+36%	28	+ 10%
コーポレート他	8	8	△ 1%	+7%	+12%	2	3	△10%	△11%	△11%	3	△ 23%
全社合計	6,149	7,470	△ 18%	△17%	+2%	2,302	2,495	△ 8%	△7%	+6%	2,115	+ 9%

営業利益 (右側：営業利益率)	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	2019年度	前年	為替影響を	外部・特殊要因	2020年度	QoQ	
	通期	通期	同期比	除く前期比	を除く前年同期比	3Q	3Q	同期比	除く前年同期比	を除く前年同期比	2Q		
デジタルワークプレイス事業	△ 62	-	176	-	-	31	2.5%	43	△27%	△53%	△2%	3	+ 887%
プロフェッショナルプリント事業	△ 88	-	50	-	-	△ 0	-	29	-	-	-	△ 17	-
ヘルスケア事業	△ 71	-	△ 38	-	-	△ 5	-	△ 4	-	-	-	△ 18	-
インダストリー事業	98	11.5%	112	△12%	△9%	48	15.1%	42	+12%	+17%	+55%	22	+ 116%
コーポレート他	△ 123	-	△ 195	-	-	△ 40	-	△ 59	-	-	-	△ 42	-
全社合計	△ 246	-	106	-	-	33	1.4%	51	△36%	△56%	+116%	△ 52	△ 163%

■ 改善 ■ 想定通り ■ 未達

	下期重点取組み（2Q資料再掲）	3Qの進捗
デジタルワーク プレイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ MFP：bizhub i-Seriesカラー・モノクロフルラインナップ完成により獲得した大口案件の確実なクローズ。 ■ ITサービス：引き合いが拡大しているテレワークを支援するMITや、医療や政府・自治体などの業務プロセスを支援するECMの拡販。 ■ WPH：国内に加え欧米でWorkplace Hub Smartをベースとしたソリューション販売を開始し、直販に加え大手代理店にも展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MFP：主力市場の欧州を中心に新製品販売拡大。大口顧客への設置も順調。 ■ 米国では港湾混雑によるキャリーオーバーが発生（利益影響10億円弱）。 ■ ITサービス：米国での教育機関向けMITや、国内での自治体や金融機関向けワークフロー・文書管理ソリューションなどで増収。 ■ WPH：WPH Smartを欧米でも11月に販売開始。戦略変更が予定通り進捗。
プロフェッショナル プリント	<ul style="list-style-type: none"> ■ PP/IP：需要回復の早い印刷通販を行っている中堅・大手印刷会社へのHPP/KM-1eの拡販、PVの早期回復。 ■ PP：LPP新製品投入。既存顧客の買い替え需要に加え、MPP/HPP機同様の自動化・省人化という特徴で新規顧客への販売を拡大。 ■ IP：堅調なラベル需要に対応し、簡単操作かつ少人数での高画質印刷が可能なラベル機のさらなる拡販。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PP：HPP機の販売は堅調。欧米で12月にLPP新製品販売開始、4Q以降寄与。 ■ 米国での港湾混雑によるキャリーオーバー含め（利益影響5億円弱）、PPは全体的に回復が想定より遅れ。 ■ IP：顧客の投資判断長期化や延期によりハード回復に遅れも、堅調なラベル印刷などのノンハードがけん引して、QoQで回復。

■ 改善 ■ 想定通り ■ 未達

	下期重点取組み（2Q資料再掲）	3Qの進捗
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 画像診断機器/医療IT：地域や診療科の特性に応じたパートナー戦略を推進、高付加価値画像診断機器、医療ITサービスによる診断の高度化支援及び販売強化。 ■ Ambry：CAREプログラムによる非罹患者を対象とした市場拡大と検査数増。CARE for COVIDを契機とした企業向け遺伝子診断サービスの契約拡大。 ■ Invicro：治験再開後の受注残（バックログ）の刈取りとがん領域の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 画像診断機器/医療IT：DRは動態解析でX線機器メーカーと、超音波撮影装置は産科領域で、パートナー戦略を強化。 ■ Ambry：CARE Programは、契約施設数は順調に拡大、サンプル数伸長。Orange Countyとの契約獲得などCOVID-19検査拡大。 ■ Invicro：治験参加者の減少によるプロジェクトの保留状態が依然継続。受注残は継続的に増加。
インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計測機器：自動車外観計測の拡大、非可視センシング領域への事業拡大。 ■ 機能材料：新樹脂フィルムSANUQIを加えた全方位アプリケーション対応（大画面TV、タッチセンサー用など）による販売拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計測機器：自動車外観計測はCOVID-19影響で商談の遅延あるも、受注が進捗。食品・製薬・リサイクルなど検査領域で顧客価値を提供するハイパースペクトルイメージング(HSI)の有力企業Specim社を買収。 ■ 機能材料：大型液晶TV向けは着実に拡大。中小型向け高付加価値製品も推進中。 ■ 画像IoT：FORXAIの提供を開始し、パートナー企業開拓進捗。

2Q⇒3Q事業別の変化点とその要因



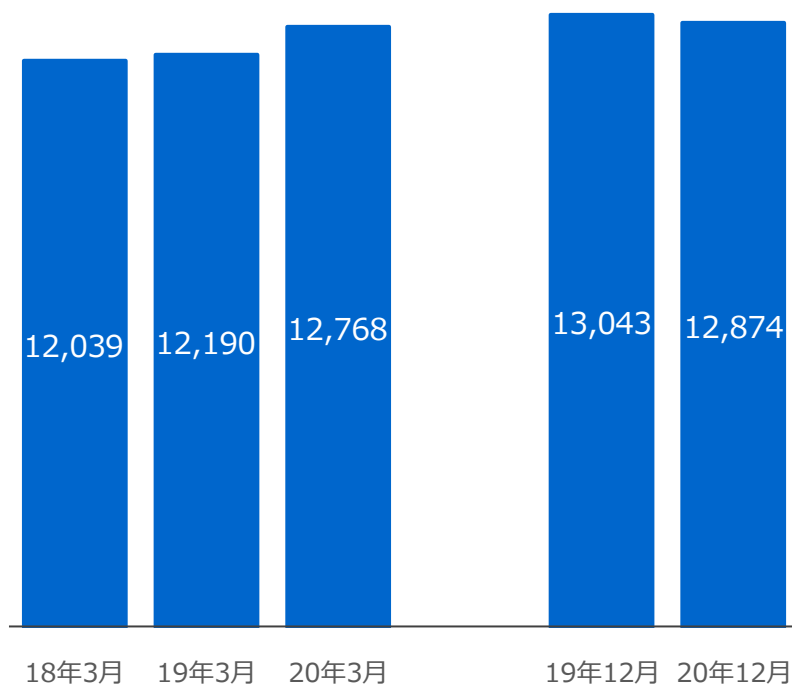
	主要KPI進捗など(YoY)			3Q変化点分析
	1Q	2Q	3Q	
デジタル ワークプレイス	NH売上 69% A3MFP台数 74% ITS売上 86%	NH売上 80% A3MFP台数 86% ITS売上 100%	NH売上 86% A3MFP台数 94% ITS売上 102%	<ul style="list-style-type: none"> 中国は増収 Momentum 継続で前年比115%強、日本は95%強、欧州は85%、米国は80%にそれぞれ着実に回復。 3Qは欧米での出社率低迷によりNH回復が弱く、相対的に新製品効果や大口案件などもありHWの回復が強い。 ITSは、米国での教育機関向けや国内での自治体・金融機関向けワークフローソリューションなどがけん引して増収トレンド。
プロフェッショナル プリント	PP NH売上 62% PP台数 57% IP NH売上 95%	PP NH売上 75% PP台数 71% IP NH売上 118%	PP NH売上 84% PP台数 67% IP NH売上 130%	<ul style="list-style-type: none"> プロダクションプリントの需要は、オフィスに対しての遅効性は想定通りも欧州が前年比80%弱、米国70%と2Q水準の回復。 中国は増収基調拡大で130%以上、日本は90%弱に回復。 3Qは投資的要素のHWよりNHの回復が相対的に強い。 産業印刷は、欧米共にNHが増収率拡大。HWは引き続き、受注残が拡大。
ヘルスケア	DR数量 134% 遺伝子検査数 76% 創薬支援受注残 127%	DR数量 77% 遺伝子検査数 104% 創薬支援受注残 153%	DR数量 106% 遺伝子検査数 101% 創薬支援受注残 164%	<ul style="list-style-type: none"> 病院・診療所への営業活動再開。 遺伝子診断：唾液で検査できるDNA検査が寄与、遺伝子診断検査数が前年並みまで回復。 創薬支援：治験遅れ続くが一部前臨床が回復し、売上は前年同期並み。受注残（バックログ）金額が継続的に拡大。
インダストリー	計測機器売上 71億円 機能材料売上 98億円	計測機器売上 76億円 機能材料売上 116億円	計測機器売上 80億円 機能材料売上 133億円	<ul style="list-style-type: none"> 光源色向け計測器は大手顧客の需要継続。アジアでのディスプレイ需要も確実に捉えて好調を維持。 巣籠り需要で大型TV、PC及びスマートフォン用フィルム需要が引き続き増加し、増収基調拡大。

※HW=ハードウェア、NH=ノンハード

資産合計（総資産）

【億円】

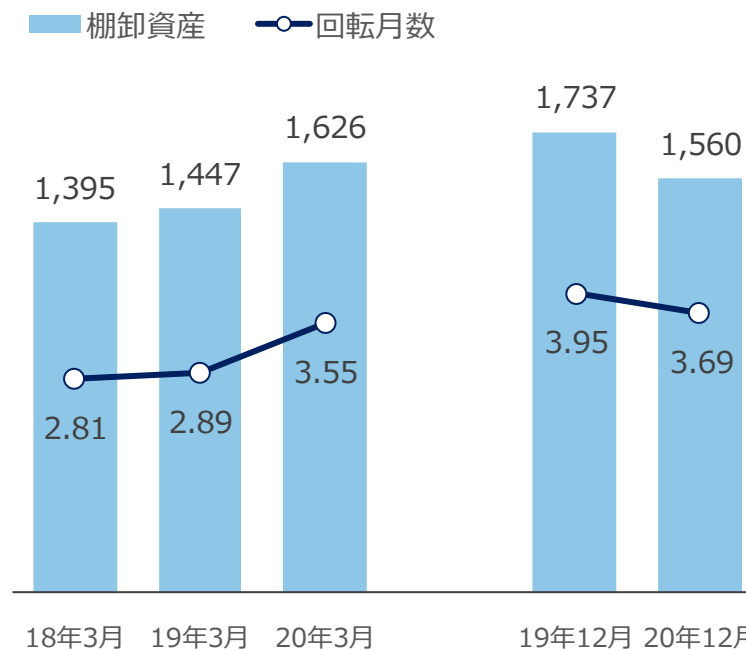
手元流動性確保のための現金増加とコロナ禍での売上債権減少、棚卸資産削減により前期末水準。



棚卸資産・回転月数

【億円】

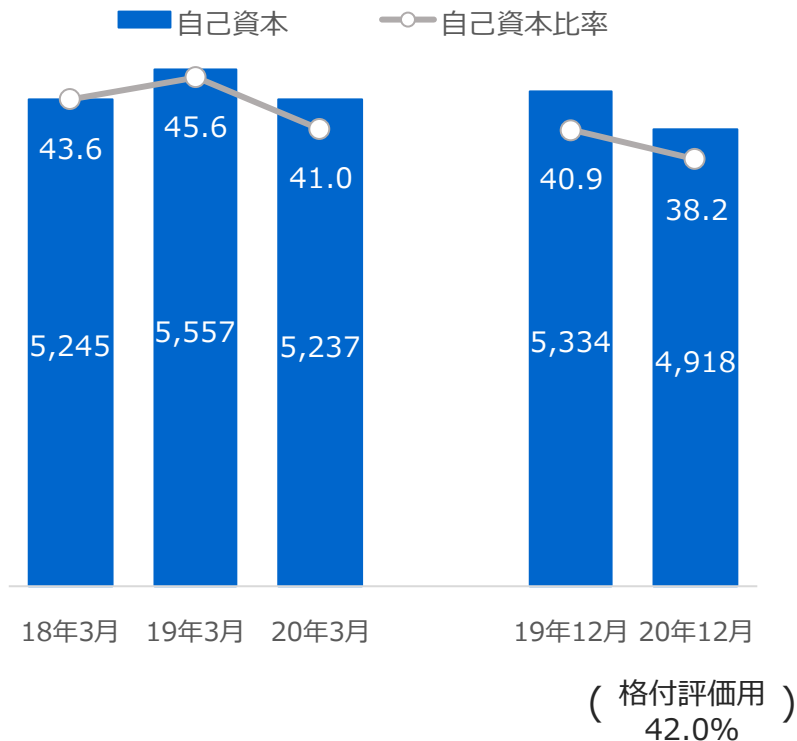
生産の絞り込みにより6月末をピークとして回転日数低減進捗。期末に向けて3ヶ月以下を目指す。



棚卸資産回転月数 = (当期末棚卸資産残高) / (直近3カ月の平均売上原価)

自己資本・自己資本比率 【億円】

前期末比では当期損失と配当支払による減少。

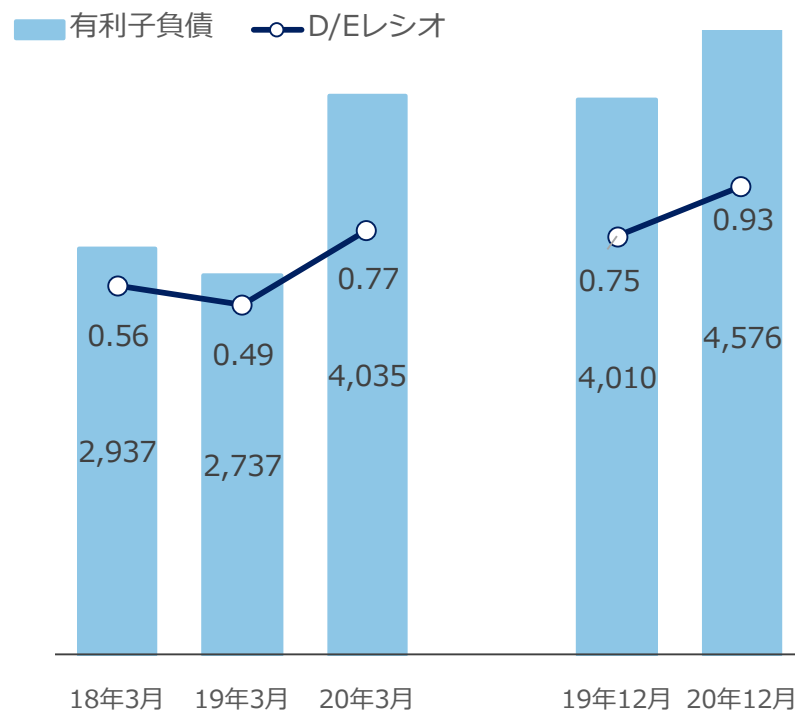


自己資本=親会社の所有者に帰属する持分
自己資本比率=親会社の所有者に帰属する持分/総資産

有利子負債・D/Eレシオ 【億円】

期初借入850億円のうち300億円を上期末に返済。ネットD/Eレシオは0.68。

信用格付けはA格を維持 (12-1月リリース)。





20年度4Q重点施策と業績見通し

2Q決算時想定：「下期は各国でCOVID-19の第2波・第3波による波を繰り返し、局地的なロックダウンにより経済活動や人々の行動が一定の制約を受ける環境を前提とする」
 ⇒ 欧米のCOVID-19対応状況から事業によって一時的に需要回復の停滞が起こりうるが、今後のワクチン投与進展も考慮し、全社として現時点で従来の見方に大きな変更無し。

	4Q以降の市場環境認識/前提
各地域での経済活動	<ul style="list-style-type: none"> 中国：プラス成長継続、FY21下期にはGDP成長率もCOVID-19前水準に。 欧米：波を繰り返し、GDP成長率がCOVID-19前水準になるのはFY22以降。
デジタルワークプレイス	<ul style="list-style-type: none"> プリントボリューム：4Qに前年比9割程度、FY21はFY19比9割、以降年率3-4%減少。 顧客の働き方：COVID-19前とロックダウン期間の中間値程度のリモートワーク比率が継続。 顧客ニーズ：ドキュメントや業務の自動化・電子化需要が拡大、米政府系、自治体等の公共部門や医療などの社会にエッセンシャルな現場での業務変革、負荷軽減など、OCRやRPAに商機。
プロフェッショナルプリント	<ul style="list-style-type: none"> デジタル印刷市場：企業の集中印刷室向けや中小印刷会社からの需要回復は遅れ、印刷通販を行っている中堅大手印刷会社に集約進行、FY21からデジタル印刷市場は拡大。 産業印刷：ラベル・パッケージ印刷ボリュームはコロナ禍でも増加、デジタル印刷市場は拡大。
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 診断・検査：日米のCOVID-19拡大による外来患者数減がしばらく継続。機器投資は回復に時間を要するが、一部での政府の補助金活用の動きが機会。遺伝子検査は、唾液で行えるDNA検査が先行して回復、血液採取を伴うRNA検査は今後の外来患者数の増加に伴って回復見込み。 創薬支援：製薬企業において徐々に治験が再開、以降成長軌道へ。
インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> 計測機器：FPD設備投資堅調。新規FPDデバイス関連や自動車外観などの需要が成長。 機能材料：FPDの多様化により新樹脂フィルム対象市場拡大。FY21以降も成長。

	2020年度 業績見通し (今回)	2020年度 業績見通し (前回)	2019年度 実績	前期比	【億円】
売上高	8,700	8,700	9,961	△13%	
営業利益	△ 130	△ 130	82	-	
	※オフィス構造改革費用65億円を含む				
親会社の所有者に帰属する 当期利益	△ 180	△ 180	△ 31	-	
棚卸資産回転月数	3.0	2.9	3.6	△15%	
設備投資	475	475	508	△6%	
FCF	100	△ 15	△ 199	-	
為替レート(円)					
USドル	105.0	105.0	108.7		
ユーロ	120.0	120.0	120.8		

通期業績 予想の 考え方

- 売上高：前回予想を据え置く。但し事業ごとの回復・成長の強弱を反映。
- 営業利益/当期利益：前回予想を据え置く。但し事業ごとの回復・成長の強弱を反映。4Qも引き続き固定費を抑制、売上回復以上に粗利額を改善し、オフィス事業の収益構造変革に係る一時費用を計上した上で、下期営業利益149億円とする。
- 資本効率：在庫削減を継続し、期末の在庫回転月数は18年度以前の水準への改善。設備投資は三河新工場への投資など厳選しながら抑制。利益創出力の向上と投資抑制により、FCFは2Q,3Qの黒字進捗を考慮し今回100億円に上方修正。

20年度 業績見通し | 事業セグメント別売上高と営業利益

【億円】

売上高	2020年度 通期見通し	2020年度 業績見通し(前回)	2019年度 実績	前期比
デジタルワークプレイス事業	4,700	4,650	5,490	△ 14%
プロフェッショナルプリント事業	1,700	1,800	2,101	△ 19%
ヘルスケア事業	1,075	1,075	1,185	△ 9%
ヘルスケア	800	800	879	△ 9%
プレジジョンメディシン	275	275	306	△ 10%
インダストリー事業	1,225	1,175	1,172	+ 5%
センシング	315	290	275	+ 15%
材料・コンポーネント	775	750	788	△ 2%
画像IoTソリューション	135	135	109	+ 24%
コーポレート他・連調	0	0	13	△ 100%
全社合計	8,700	8,700	9,961	△ 13%

営業利益 (右側：営業利益率)	2020年度 通期見通し	2020年度 業績見通し(前回)	2019年度 実績	前期比
デジタルワークプレイス事業	0 ※ -	0 -	177 3.2%	-
プロフェッショナルプリント事業	△ 70 -	△ 25 -	44 2.1%	-
ヘルスケア事業	△ 55 -	△ 55 -	△ 44 -	-
インダストリー事業	155 12.7%	115 9.8%	143 12.2%	+ 8%
コーポレート他・連調	△ 160 -	△ 165 -	△ 238 -	-
全社合計	△ 130 -	△ 130 -	82 0.8%	-

※オフィス構造改革費用 65億円含む

下期重点施策の3Q進捗を受け、業績見通し達成に向けて注力領域を精鋭化。

	4Q重点取組み
デジタルワークプレイス	<ul style="list-style-type: none"> ■ i-Seriesフルラインナップ訴求、コロナ影響の少ない顧客業種・地域での販売強化 ■ 今期緊急施策による経費圧縮、来期に向けた収益構造改革の完遂 ■ ITS/WPHは米国での教育機関、独製造業、国内自治体など案件の売上加速
プロフェッショナルプリント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 拡大しているHPPパイプライン案件の確実なクローズ ■ LPP新製品の販売本格化（当社顧客機置き換え、他社機置き換え） ■ 印刷通販などで好調な中堅大手印刷会社への販売注力
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 看護支援システム、オンライン診療PF販売開始。動態解析・PACS販売加速 ■ 唾液によるDNA検査販売注力(CARE含む)と最新NGSによる原価低減 ■ CARE for COVID起点とした企業向けCARE program契約の獲得
インダストリー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計測機器：21年モデル案件の取り込み拡大。Micro/Mini LED案件拡大 ■ 計測機器：Specim社のPMIと収益貢献開始 ■ 機能材料：需要堅調なTV用位相差売上拡大。スマホ/タブレット用超薄膜拡大 ■ 画像IoT：ガス漏洩検査カメラを活用した防災診断サービス、フォークリフト事故低減サービスなどFORXAIを活用してパートナー企業とサービス展開開始
全社	<ul style="list-style-type: none"> ■ 港湾混雑対策を講じ、期末受注残の最小化で在庫回転日数3ヶ月以下の達成 ■ オペレーションのDX化加速による生産効率向上で、販管費1,000億円未満継続 ■ 事業ポートフォリオ転換加速のための各種施策を進展

期末配当予想について（2Qより変更なし）

- 資本政策：収益構造改革及び事業ポートフォリオ転換により徹底的にキャッシュ創出力を高め、厳選した成長投資を実行しながら、株主還元を維持・向上。
- 20年度決算はコロナ禍で当期赤字に落ちこむが、22年度に向けた基本方針に基づき、21、22年度の利益水準を元的水準に戻すことに蓋然性あり。
- 上記の考え方により、19年度の配当水準を維持し、年間配当予想は25円/1株（中間配当10円/1株・期末配当15円/1株）とする。

- 11月に**中期サステナビリティ戦略2022**を開示。サステナビリティレポートをウェブ化して一新。「カーボンマイナス」を2030年に前倒しなどDXを活用した取り組みを強化
<https://www.konicaminolta.jp/about/csr/index.html>
- 19年度に開始した**TCFD**フレームワークに則った開示に続き、**SASB**基準での開示も開始。
- 「**2021年 世界で最も持続可能な100社**」に3年連続4度目の選定（日本企業は5社、当社は41位）
- 「**Dow Jones Sustainability World Index**」**構成銘柄**に9年連続で採用
- **CDP**より 最高評価の「**気候変動Aリスト**」企業に認定（5回目）
- 令和2年度**気候変動アクション環境大臣表彰**を受賞

3月上旬に**無形資産・非財務に関するIR Day**を予定（詳細は別途案内）

Appendix

重点方針

3Q進捗

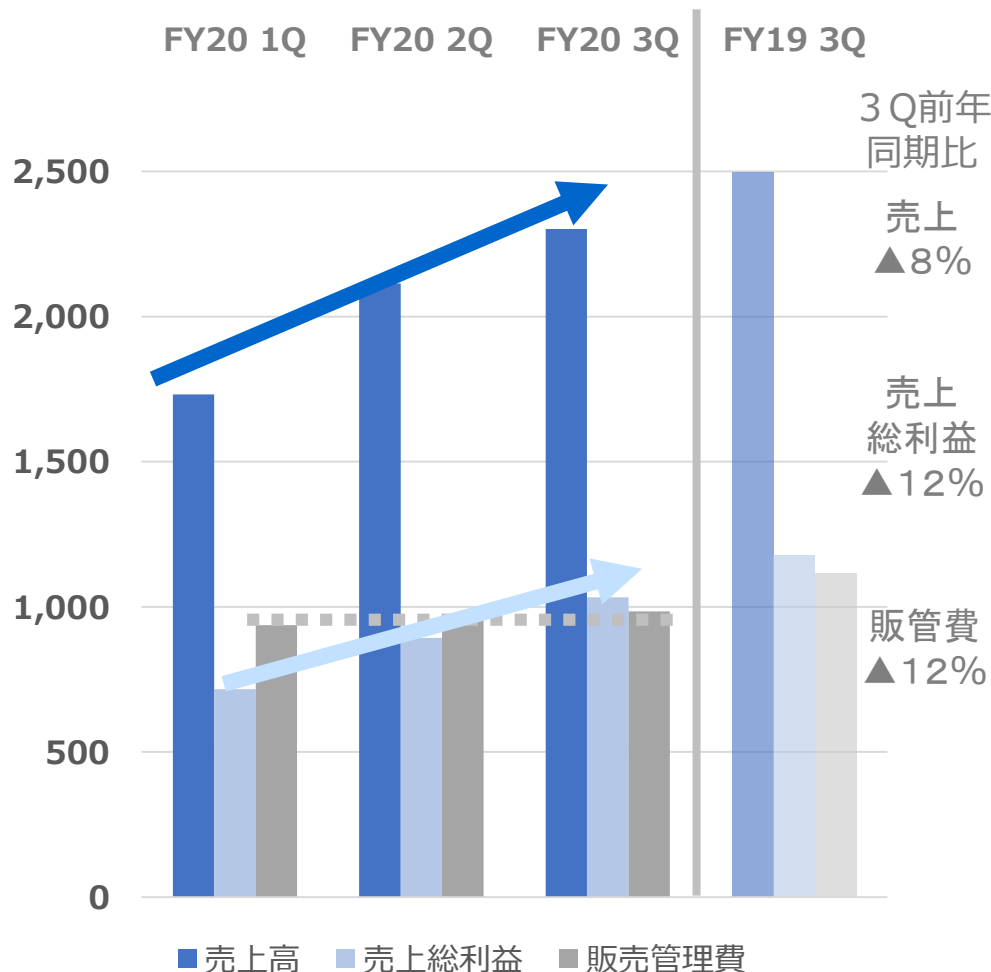
①収益性の持続的な改善と強化	FY19実施の構造改革効果、製造原価&サービス原価低減	<ul style="list-style-type: none"> 構造改革効果：予定通り進捗（9ヶ月累計実績65億円/年間目標90億円） 原価低減：変動費は物量減影響受け未達（固定費削減でカバー）（9ヶ月累計実績22億円/年間目標60億円）
②手元流動性の確保	事業に集中できる資金手当ての実施。徹底した在庫削減と投資抑制	<ul style="list-style-type: none"> FCF：利益黒字化、在庫回転日数低減、設備投資抑制により、2四半期連続FCF黒字、累計も黒字化。 期初借入850億円のうち9月に300億円返済、成長事業でのM&A、配当も実施した上で手元流動性に問題無し。未使用のコミットメントライン3,000億維持。
③固定費削減の徹底	顧客接点对応のDX化による経費構造変革、需要創出活動見直しによる広告宣伝費・旅費交通費・物流費削減、これらによる構造改革。また、助成金の活用	<ul style="list-style-type: none"> 緊急施策効果は予定通り進捗（9ヶ月累計実績280億円/年間目標200億円） 総固定費削減も9ヶ月累計YoYで573億円削減、うち、総労務費は272億円の削減。 販管費は1Qから継続して四半期1,000億円未滿に抑制。
④資本生産性の向上	KM-ROIC及び投下資本収益管理による事業別資本効率管理強化	<ul style="list-style-type: none"> 生産量の絞込み（粗利率では短期的には悪化）、販売フォーキャスト精度の向上で1Qをピークとして回転日数削減。年度末の在庫回転月数3カ月未滿に向けて計画通り進捗。 設備投資は選別及び先送りにより9ヶ月累計YoY12.5%減。
⑤組織体制の变革	変化を機会として捉え、自律的、機動的に行動する組織体制を確立。守りと攻めのタスクフォースによる活動推進	<ul style="list-style-type: none"> 自治体DXビジネスの拡大に向け、攻めの人財シフトを含めた効果の早期化・最大化のための活動を強化中

3Qに入り事業ごとに強弱が出ているが、5月をボトムとした売上高の回復基調が継続。中国、日本、その他アジアが増収、欧州は9割弱維持、米国は8割強に回復。

事業	影響	売上影響額	利益影響額
デジタルワーク プレイス/ プロフェッショナル プリント	<ul style="list-style-type: none"> ハードは顧客訪問を伴う販売活動の制約で商談・設置遅れが影響 ノンハードはオフィスでは顧客企業での出社制限、プロダクションでは顧客の受注減少の影響。ハード/ノンハード共に6月以降に回復傾向 	オフィス 130億円程度 プロプリ 125億円程度	オフィス 20億円程度 プロプリ 50億円程度
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 来院者減少が継続、地域により病院・クリニックの投資判断に遅れ 	10億円強	5億円程度
プレジジョン メディシン	<ul style="list-style-type: none"> 米国での遺伝子検査数回復基調もロックダウンによる来院患者減影響継続、創薬支援も治験延期影響が継続 	30億円強	25億円弱
材料・コンポー ネント	<ul style="list-style-type: none"> IJコンポは顧客の輸出先国でのCOVID-19拡大が影響 光学コンポはエンターテインメント系需要減退の影響でプロジェクトレンズの販売に影響 	15億円強	10億円弱
全社		320 億円程度	110 億円程度

スリム化した経費構造を維持しながら、需要回復と成長領域拡大で着実に売上高を回復、3Qで黒字転換。第4四半期以降の黒字拡大を目指す。

売上高/売上総利益/販売管理費（億円）



売上総利益

- 売上回復に伴い、QoQで粗利率・粗利額ともに改善。
- 北米の売上回復遅れによる製品ミックス悪化は継続も、在庫削減加速のための操業度悪化が解消、売上総利益率はQoQで2.6pt改善。

販売管理費

- 1Qから継続して1,000億円未満に抑制
- 顧客接点及び需要創出活動のDX化（非対面営業/ウェビナー/オンラインデモ）
- 上記による広告宣伝・旅費交通費・物流費削減

総固定費（売上原価内・販管費内固定費）

- FY19実施済及び、上期に追加した構造改革などにより、労務費を中心に削減継続。

FY20 (億円)	1Q	YoY	2Q	YoY	3Q	YoY
総固定費	1,267	△203	1,191	△242	1,322	△128
うち総労務費	793	△107	789	△87	815	△78

【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	OP	1,164	1,209	1,196	1,166
	ITS	181	177	194	177
	WPH	4	5	5	11
営業利益		55	78	43	1

FY20		1Q	2Q	3Q	YoY
売上高	OP	783	982	1,042	△ 13%
	ITS	157	177	199	+3%
	WPH	6	8	10	+80%
営業利益		△ 96	3	31	△ 27%

四半期推移

3Qの概況

オフィス (OP)

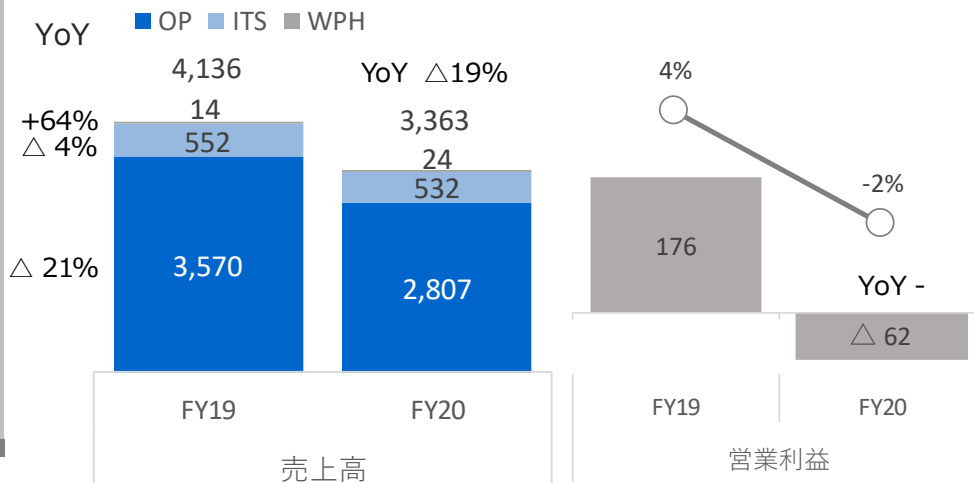
- i-Seriesフルラインナップが出揃い販売台数が着実に回復 (1Q△26%、2Q△14%、3Q△6%)
- 地域別では中国は6月以降の増収モメンタム継続、日本が95%強、欧州は前年比85%、米国は港湾混雑により4Qへのキャリーオーバー発生 (利益影響10億円弱) も80%に着実に回復。
- 3Qは欧米での出社率低下でNH回復弱く、相対的にHWは新製品効果や大口案件などもあり回復進展。

ITサービスソリューション (ITS)

- 米国での教育機関向けMIT、国内での自治体や金融機関向けワークフロー・文書管理などで増収。

ワークプレイスハブ (WPH)

- WPH Smartを欧米でも11月に販売開始。セキュリティやワークフローと組み合わせ、既存MFP顧客への販売が進捗。



累計

【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	PP	342	354	375	335
	IP	38	58	51	60
	MS	126	115	128	119
営業利益		11	10	29	△ 7

FY20		1Q	2Q	3Q	YoY
売上高	PP	204	271	295	△ 21%
	IP	29	43	48	△ 6%
	MS	84	102	110	△ 14%
営業利益		△ 71	△ 17	△ 0	-

四半期推移

3Qの概況

プロダクションプリント (PP)

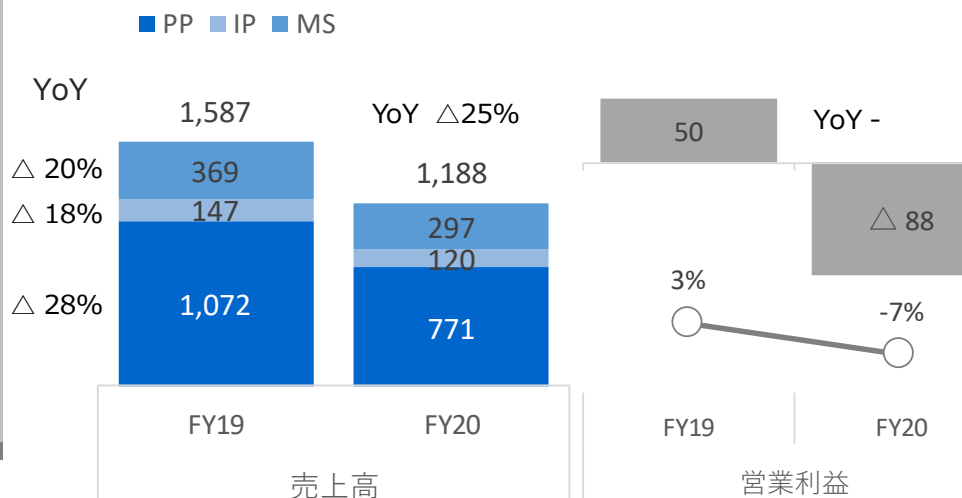
- カラー機モノクロ機共に、顧客の投資判断長期化や延期などにより回復基調が停滞。
(1Q△51%、2Q△29%、3Q△33%)
HPP機の販売は堅調。12月にLPP新製品販売開始。
- 相対的にNHは回復基調継続。
(1Q△38%、2Q△25%、3Q△16%)。

産業印刷 (IP)

- HW は顧客の投資判断長期化や延期、顧客への設置における制約などにより回復基調が停滞。
- NHは2Qに引き続き増収基調でHWと合わせて前年並みにQoQで回復モメンタムを維持。

マーケティングサービス (MS)

- 欧米は顧客企業マーケ・販促活動減少で需要減。
- 国内はキンコースで法人顧客の販促イベント中止や延期、研修オンライン化などで受注減少傾向。店頭来客数も減少。



累計

【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	HC	186	264	181	247
	APM	72	74	77	83
営業利益		△ 21	△ 12	△ 4	△ 6

FY20		1Q	2Q	3Q	YoY
売上高	HC	164	191	200	+10%
	APM	41	59	82	+5%
営業利益		△ 47	△ 18	△ 5	-

四半期推移

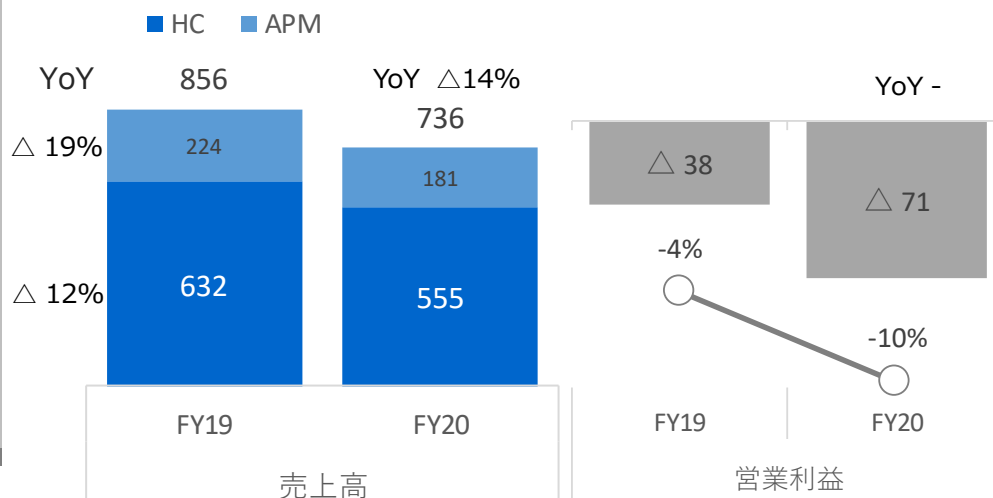
3Qの概況

ヘルスケア (HC)

- DRは、営業活動制限やクリニック市場の鈍化の影響残るが、国内の病院市場が伸長。動態解析の中国展開も開始し、前年同期比で数量増。
- 超音波診断装置は、国内産婦人科向け、中国・アジア市場が伸長し前年同期比で数量増。
- 医療ITは、米国で営業活動制限の影響が継続するも、国内のinfomity、PACS、線量管理システムの販売が好調。

プレジジョンメディシン (APM)

- 遺伝子検査は、CARE Programの展開拡大も寄与しサンプル数が前年同期並みに回復。四半期黒字。
- Orange Countyの契約をはじめ、COVID-19検査サービスが拡大。
- 創薬支援サービスは、治験参加者の減少によるプロジェクトホールドと受注残拡大が依然継続するも、一部前臨床が回復し、売上は前年同期並み。

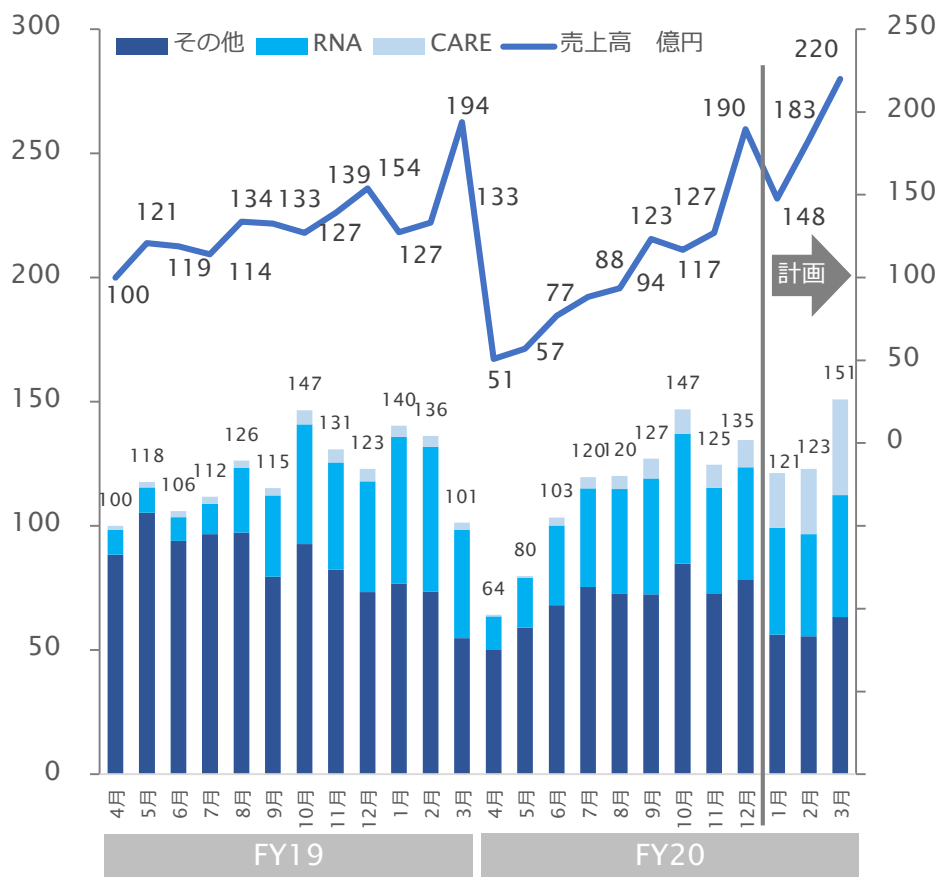


累計

Ambry (AG社)

※FY19 4月を100とした時の指数

AG社 売上高および受領サンプル数推移*

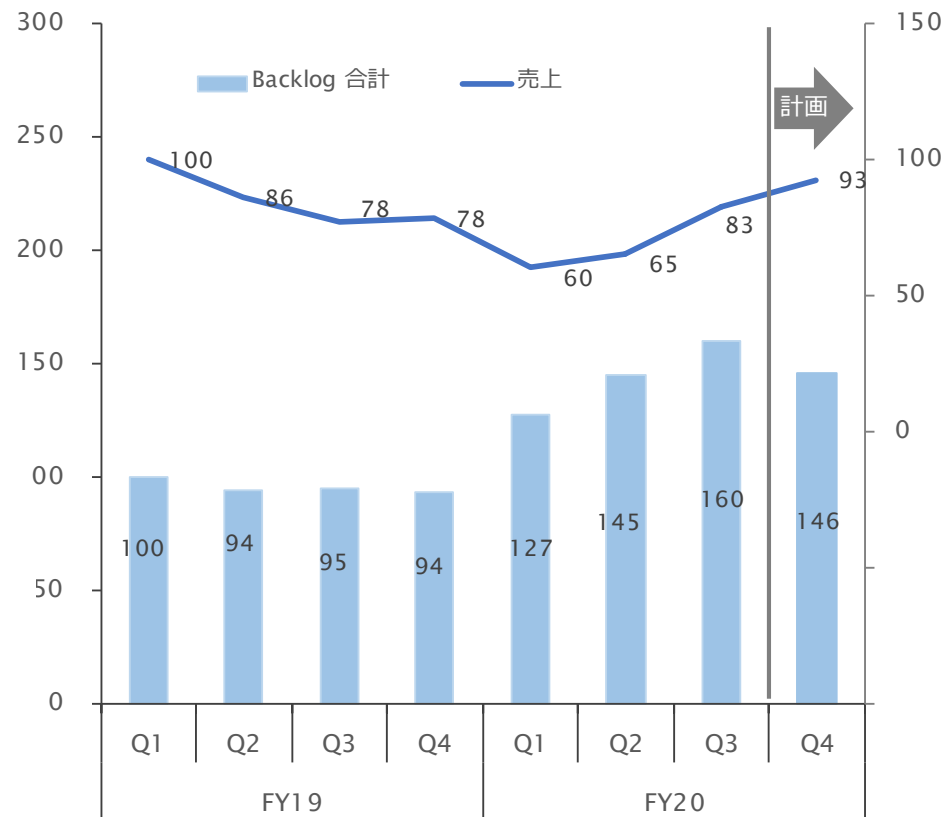


※FY20/1月以降は社内計画

Invicro(IC社)

※FY19 1Qを100とした時の指数

IC社売上高およびバックログ推移



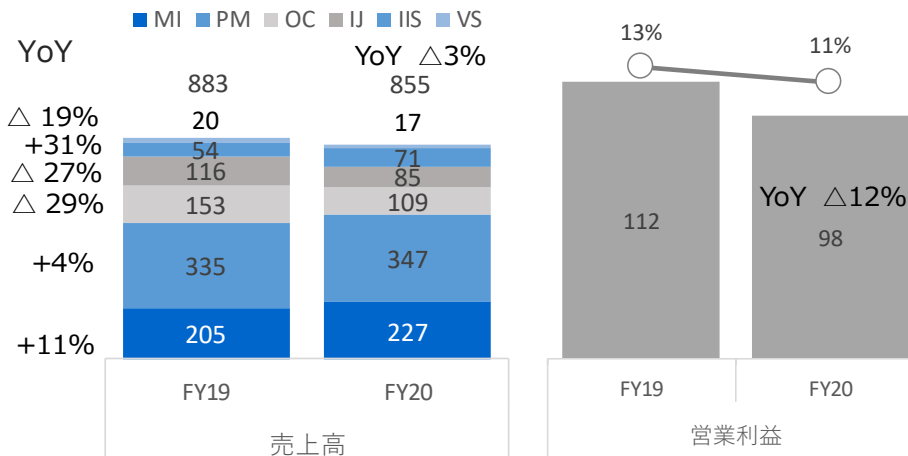
※FY20/4Q以降は社内計画

【億円】

売上高・営業利益

FY19		1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	MI	66	67	73	70
	PM	120	113	102	108
	OC	48	53	52	44
	IJ	42	39	35	32
	IIS	19	20	16	22
	VS	6	8	7	12
営業利益		32	37	42	31

FY20		1Q	2Q	3Q	YoY
売上高	MI	71	76	80	+10%
	PM	98	116	133	+30%
	OC	38	32	40	△ 23%
	IJ	25	28	32	△ 9%
	IIS	27	23	20	+28%
	VS	2	4	10	+47%
営業利益		28	22	48	+12%



3Qの概況

産業用光学システム：計測機器 (MI)

- 物体色向け計測器は市場回復基調で堅調。
- 光源色向けは大手顧客の需要が継続、アジアでのディスプレイ需要も確実に捉えて好調を維持。
- Specim社買収・クローニングし、HSI事業に参入。

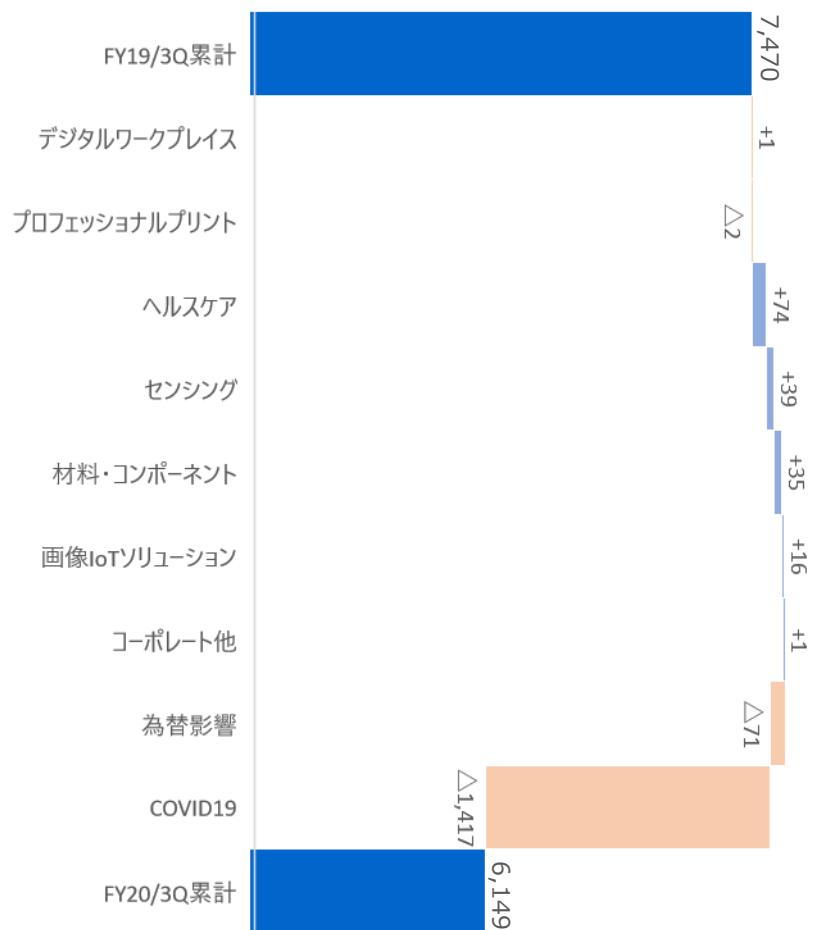
材料・コンポーネント：機能材料(PM)、光学コンポーネント(OC)、IJコンポーネント(IJ)

- PM：市況回復した液晶TV向けの高付加価値製品、PC及びスマホ用薄膜フィルムの需要増を確実に捉え販売好調。前年同期比で増収。
- OC：イベント制約継続により、プロジェクト用レンズ等の販売が減少し前年同期比で減収。対2Qで増収。
- IJ：顧客販売先のロックダウン影響により前年同期比で減収だが、中国、インドなどの一部地域では工業用途で需要が高まり、今後の売上増を見込む。

画像IoTソリューション：画像IoTソリューション(IIS)、映像ソリューション(VS)

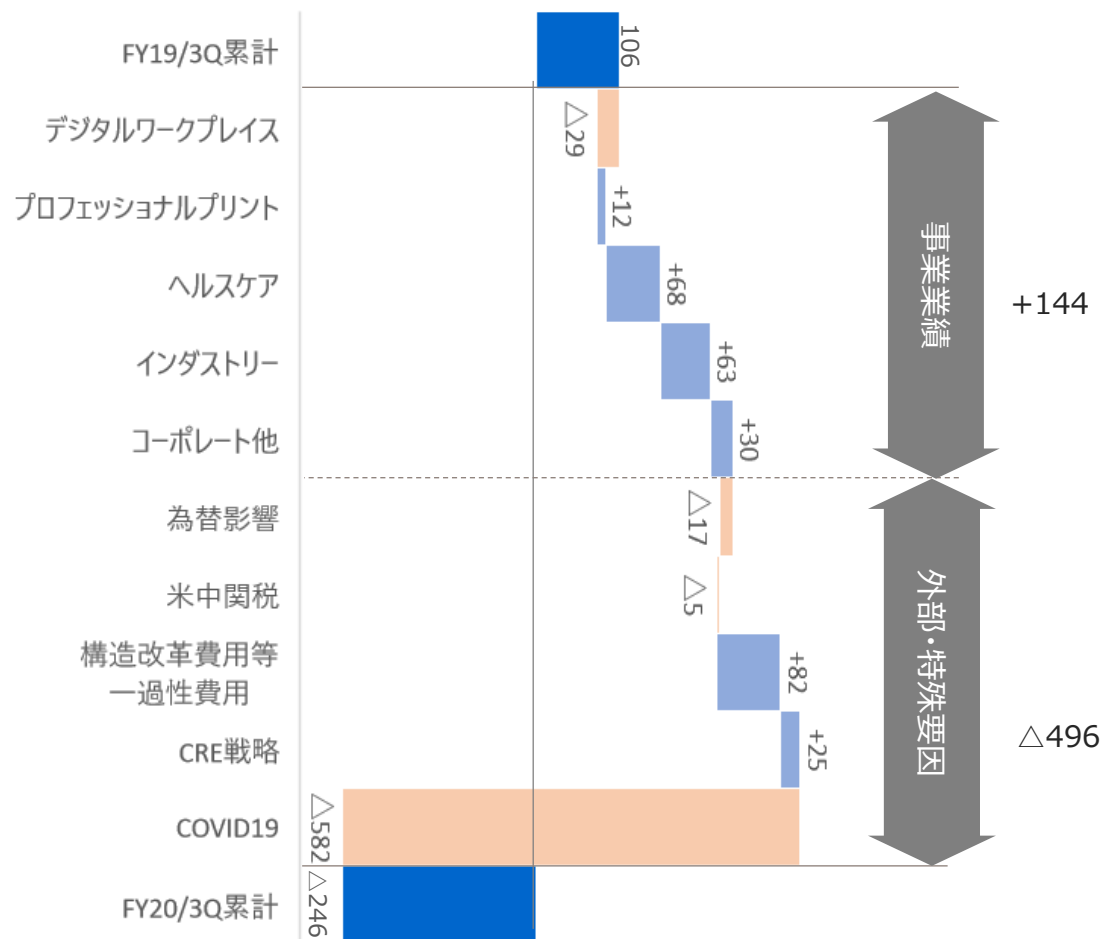
- IIS：非接触MOBOTIXサーマルカメラソリューション販売が引き続き好調で前年同期比で増収。イメージング技術にIoT、AIを融合させた画像IoTプラットフォーム「FORXAI (フォーサイ)」の提供を開始。
- VS：新規配信型イベントや、科学館等からの大型受注、全天周型の映像配信事業などにより前年同期比で増収。

売上高 (累計)



営業利益 (累計)

【億円】



【億円】

	2020年度 累計	2019年度 累計	前期比	2020年度 3Q	2019年度 3Q	前年 同期比
売上高	6,149	7,470	△18%	2,302	2,495	△8%
売上総利益 (売上総利益率)	2,642 43.0%	3,546 47.5%	△25% △ 4.5pt	1,032 44.8%	1,177 47.2%	△12% △ 2.3pt
営業利益 (営業利益率)	△ 246 -4.0%	106 1.4%	- -	33 1.4%	51 2.1%	△36% △ 0.6pt
税引前利益 (税引前利益率)	△ 285 -4.6%	56 0.7%	- -	24 1.1%	40 1.6%	△39% △ 0.5pt
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	△ 206 -3.4%	22 0.3%	- -	16 0.7%	21 0.8%	△22% △ 0.1pt
E P S (円)	△ 41.73	4.39		3.25	4.18	
設備投資額	300	343		87	100	
減価償却費及び償却費	427	423		142	142	
研究開発費	485	571		159	184	
FCF	78	△ 266		149	△ 80	
投融資	87	50		50	12	
為替レート [円] USD	106.1	108.7	△ 2.6	104.5	108.8	△ 4.3
EUR	122.4	121.1	1.3	124.5	120.3	4.2

* 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用权資産償却費は含まない



【億円】

販売管理費	2020年度 累計	2019年度 累計	前期比	2020年度 3Q	2019年度 3Q	前年 同期比
販売変動費	246	340	△93	85	113	△28
研究開発費	485	571	△86	159	184	△25
人件費	1,380	1,542	△162	469	516	△47
その他	782	907	△125	271	301	△30
販売管理費 計	2,894	3,360	△466	985	1,115	△130
*為替影響額：	△ 24億円（除く為替 △ 443億円）			△ 5億円（除く為替 △ 125億円）		
その他の収益						
有形・無形資産売却益	0	18	△18	0	17	△17
その他収益	90	10	+79	15	0	+15
その他の収益 計	90	29	+61	15	17	△3
その他の費用						
固定資産除売却損	8	34	△25	4	2	+2
固定資産減損損失	6	5	+1	4	0	+4
事業構造改善費用	37	24	+13	9	12	△3
その他費用	32	45	△13	11	14	△3
その他の費用 計	84	108	△24	30	28	+2
金融収支						
受取利息・受取配当金-支払利息	△ 27	△ 29	+1	△ 8	△ 8	+1
為替差損益	△ 4	△ 17	+13	2	△ 2	+4
その他	△ 7	△ 2	△5	△ 3	△ 1	△2
金融収支 計	△ 39	△ 49	+10	△ 8	△ 11	+3

前年同期比較

(FY20/3Q累計 vs. FY19/3Q累計)

	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【要因】						
為替影響	△7	△6	△2	△4	+2	△17
数量増減他	△481	△221	△59	△45	+2	△804
価格変動	△45	△14	△7	△12	△2	△80
コストダウン	+16	+2	+3	-	-	+21
経費増減	+254	+89	+13	+42	+44	+443
その他収益費用	+27	+10	+18	+4	+26	+85
【営業利益】						
増減額（前年同期比）	△238	△138	△33	△14	+71	△352

前年同期比較

(FY20/3Q vs. FY19/3Q)

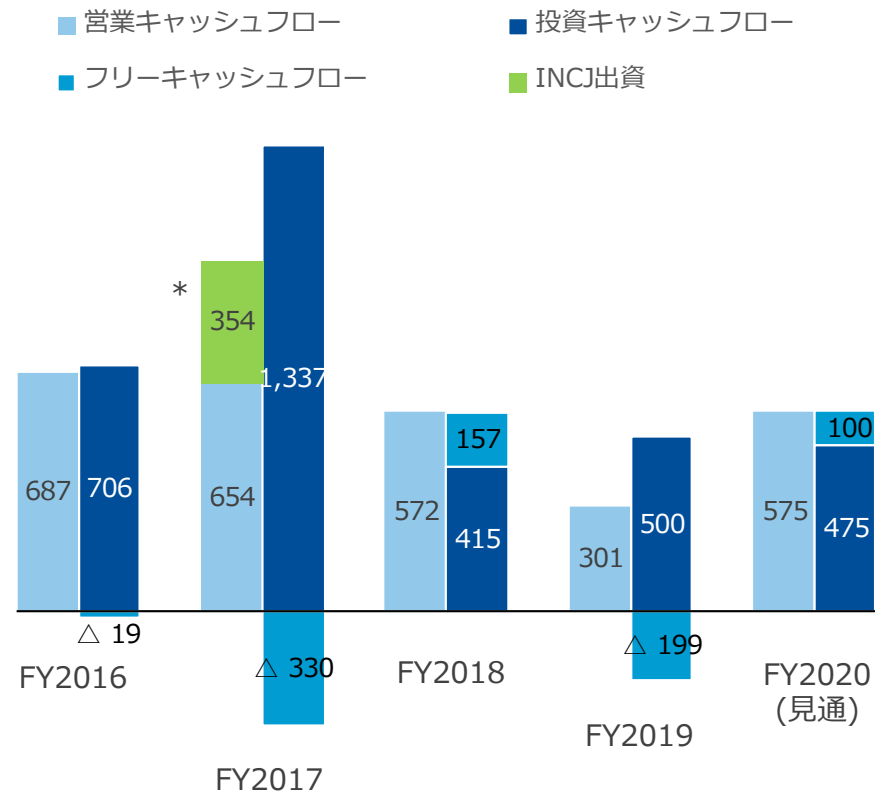
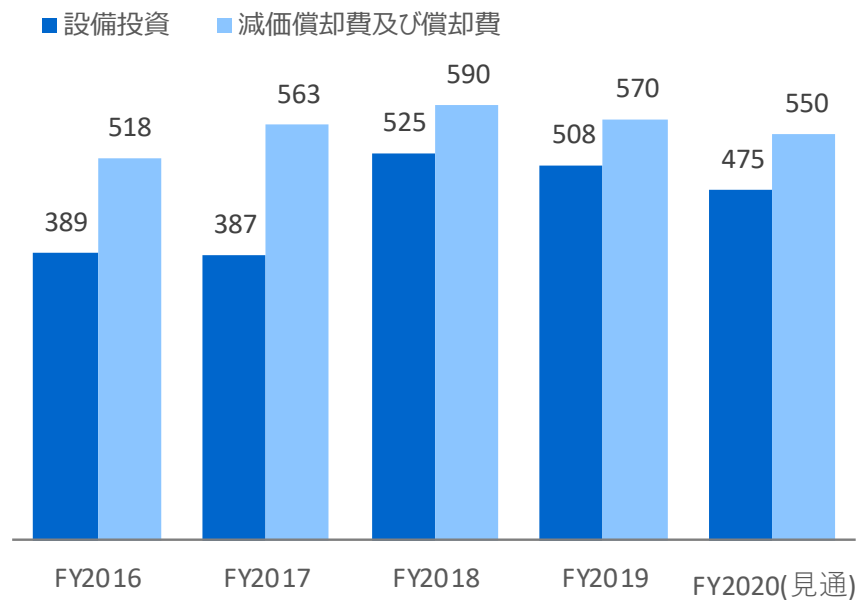
	デジタル ワークプレイス	プロフェッショナル プリント	ヘルスケア	インダストリー	コーポレート他	合計
【要因】						
為替影響	+11	+0	+0	△2	+0	10
数量増減他	△89	△50	+1	+9	△2	△131
価格変動	△16	△4	△2	△6	△0	△28
コストダウン	+7	+1	+1	-	-	+10
経費増減	+76	+22	△1	+9	+19	+125
その他収益費用	△0	△0	△1	△5	+1	△5
【営業利益】						
増減額（前年同期比）	△12	△30	△1	+5	+19	△19

設備投資・減価償却費及び償却費

【億円】

フリーキャッシュフロー

【億円】



* 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用权資産償却費は含まない

*AG社買収時産業革新機構（INCJ）出資分

【為替レート：円】

【影響額、感応度：億円】

	FY19	FY20	対前年影響額		為替感応度*2	
	累計	累計	売上高	営業利益	売上高	営業利益
米ドル	108.67	106.11	△51	+3	+28	△2
ユーロ	121.05	122.38	+21	+5	+16	+4
ポンド	137.79	136.24	△2	+0	+2	+0
欧州通貨*1	—	—	+5	+5	+21	+7
人民元	15.60	15.44	△3	△1	+31	+9
豪ドル	74.92	74.30	△0	△1	+3	+1
その他通貨	—	—	△20	△4	—	—
予約影響額	—	—	+1	△20	—	—
合計	—	—	△69	△17	—	—

*1欧州通貨：ユーロ/ポンド以外の欧州通貨も含む

*2為替感応度：1円変動時の影響額（年間）



■ 地域別売上高構成比 (円貨ベース)

	FY2018				FY19				FY20		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	13%	12%	12%	12%	12%	13%	13%	14%	15%	14%	14%
北米	33%	33%	33%	33%	34%	33%	33%	33%	33%	32%	31%
欧州	36%	36%	36%	36%	36%	34%	37%	37%	35%	36%	36%
中国	6%	6%	6%	6%	6%	6%	5%	4%	8%	8%	8%
その他	12%	13%	12%	12%	12%	13%	12%	12%	10%	11%	11%

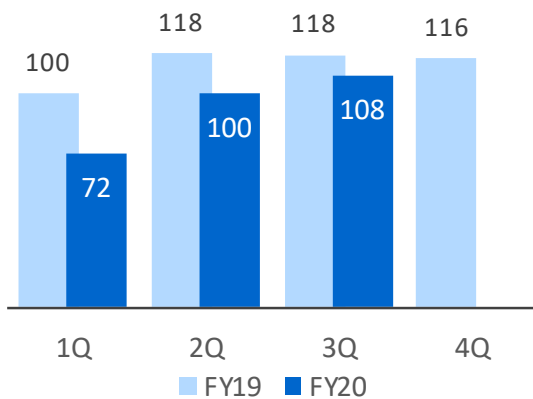
■ 地域別売上高増減 (為替除く)

	FY2018				FY19				FY20		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
日本	+4%	+1%	+2%	+3%	△8%	+4%	+1%	△3%	△19%	△18%	△14%
北米	+5%	+4%	+5%	+4%	△2%	△2%	△3%	△12%	△34%	△27%	△24%
欧州	+4%	+1%	+1%	+0%	△2%	△1%	+6%	△7%	△31%	△23%	△19%
中国	+15%	+5%	+8%	+11%	△4%	△1%	△8%	△40%	△4%	+1%	+7%
その他	+17%	+10%	+11%	+9%	△7%	+2%	+5%	△6%	△35%	△32%	△25%

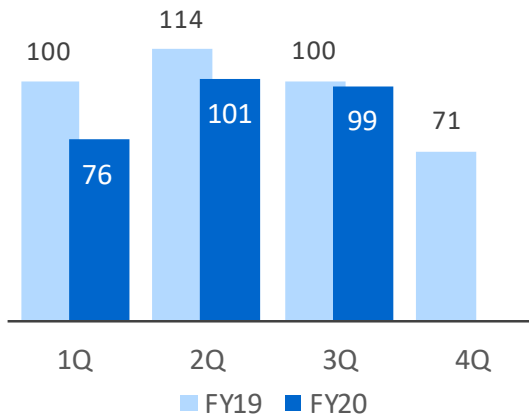
■ ハード売上に占めるカラー比率

	FY2018				FY19				FY20		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
オフィス	73%	73%	73%	74%	72%	73%	72%	75%	69%	76%	75%
PP	81%	80%	80%	81%	78%	82%	76%	80%	75%	80%	80%

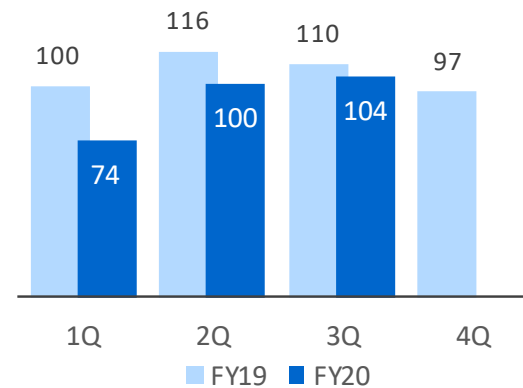
■ A3カラー-MFP 販売台数
YoY $\Delta 8\%$



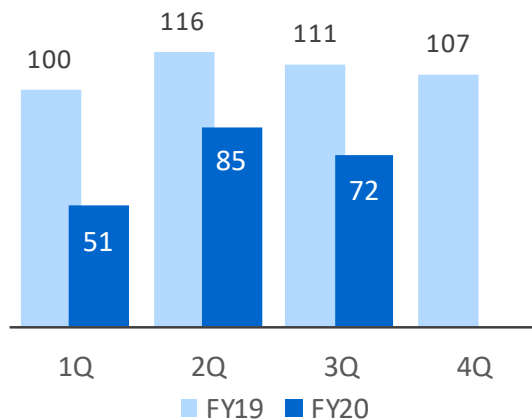
■ A3モノクロMFP 販売台数
YoY $\Delta 2\%$



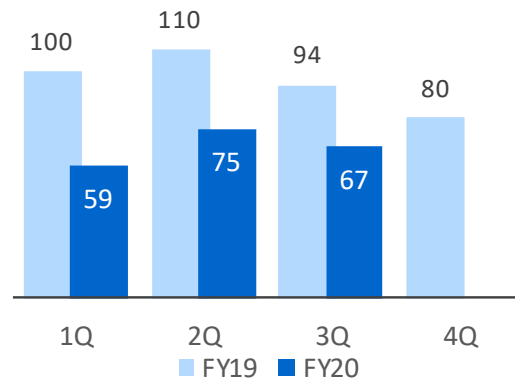
■ A3MFP トータル販売台数
YoY $\Delta 6\%$



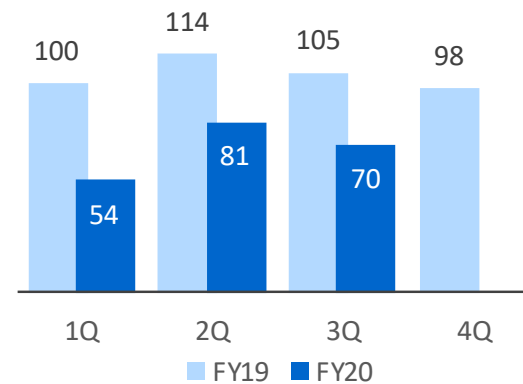
■ カラープロダクションプリント 販売台数
YoY $\Delta 35\%$



■ モノクロプロダクションプリント 販売台数
YoY $\Delta 29\%$

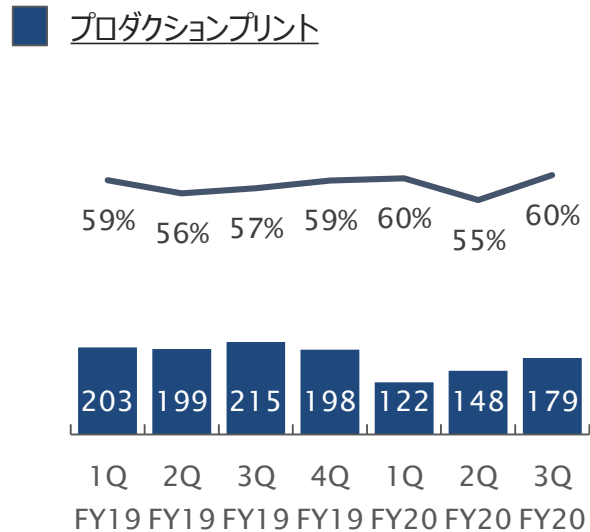
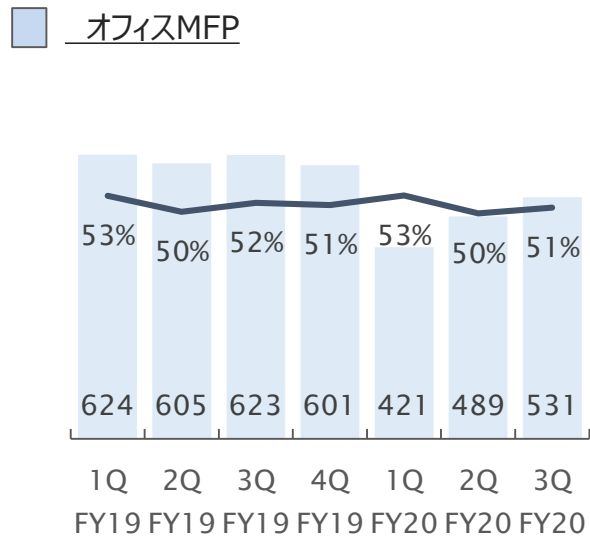


■ プロダクションプリント トータル販売台数
YoY $\Delta 33\%$



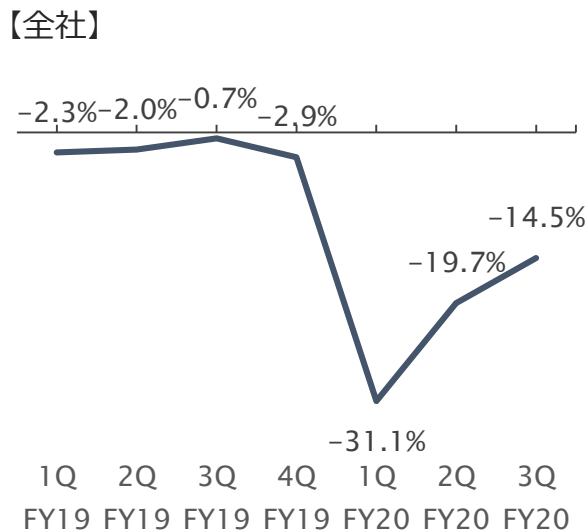
* 2019年度1Qを100とした場合の指数

【億円】 ノンハード売上高・ノンハード比率

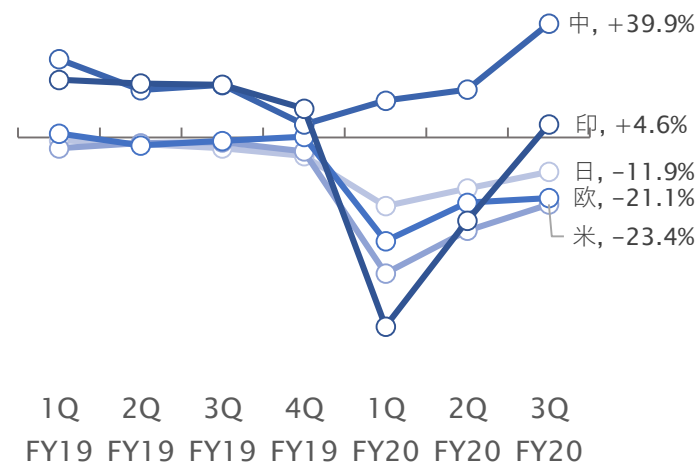
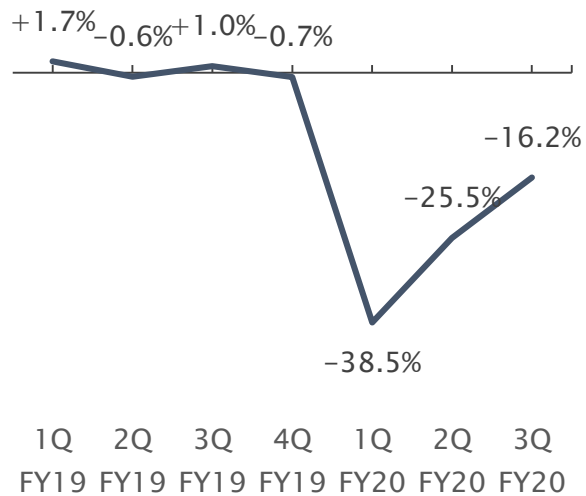
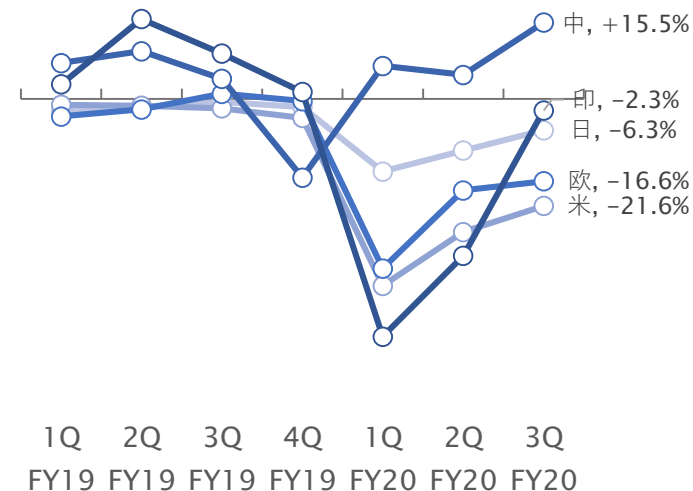


ノンハード売上高前年伸長率

(現地通貨ベース)



【地域別】





【億円】

【売上高】	FY18				FY19				FY20		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q
デジタルワークプレイス事業	1,435	1,472	1,457	1,514	1,350	1,391	1,395	1,354	946	1,167	1,250
プロフェッショナルプリント事業	534	559	558	627	506	527	554	514	318	417	453
ヘルスケア事業	245	282	275	368	259	338	259	330	205	249	282
ヘルスケア	186	216	209	298	186	264	181	247	164	191	200
プレジジョンメデシシ	59	65	66	69	72	74	77	83	41	59	82
インダストリー事業	335	303	310	304	300	298	285	289	261	279	315
センシング	96	72	77	76	66	67	73	70	71	76	80
材料・コンポーネント	215	201	206	193	210	205	189	185	161	176	205
画像IoTソリューション	24	29	26	34	25	27	23	34	29	28	30
新規事業	0	0	1	1	1	1	1	3	1	1	1
コーポレート他・連調	3	3	5	3	3	3	3	5	2	3	2
全社合計	2,552	2,619	2,605	2,815	2,417	2,557	2,495	2,491	1,732	2,115	2,302
【営業利益】	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q
デジタルワークプレイス事業	77	119	99	106	55	78	43	1	△ 96	3	31
プロフェッショナルプリント事業	17	37	33	51	11	10	29	△ 7	△ 71	△ 17	△ 0
ヘルスケア事業	△ 16	9	△ 13	6	△ 21	△ 12	△ 4	△ 6	△ 47	△ 18	△ 5
インダストリー事業	53	35	43	21	32	37	42	31	28	22	48
コーポレート他・連調	24	△ 9	△ 3	△ 65	△ 70	△ 65	△ 59	△ 44	△ 41	△ 42	△ 40
全社合計	154	192	159	119	6	49	51	△ 24	△ 226	△ 52	33

	2020年度	2019年度	前期比	【億円】
	業績見通し	実績		
売上高	8,700	9,961	△13%	
営業利益	△ 130	82	—	
(営業利益率)	—	0.8%	—	
税引前利益	△ 200	3	—	
親会社の所有者に帰属する当期利益	△ 180	△ 31	—	
(親会社の所有者に帰属する当期利益率)	—	—	—	
EPS (円)	△ 36.27	△ 6.21		
ROE (%) *1	△ 3.5%	△ 0.6%		
設備投資額	475	508		
減価償却費及び償却費 *2	550	570		
研究開発費	650	740		
FCF	100	△ 199		
投融資	100	79		
	為替レート [円] USD	105.0	108.7	
	EUR	120.0	120.8	

*1 ROE：親会社の所有者に帰属する当期利益／親会社の所有者に帰属する持分（期首・期末平均）

*2 減価償却費及び償却費：IFRS16による使用権資産償却費は含まない

旧セグメント	
オフィス事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィス(OP) ■ ITサービス・ソリューション(ITS)
プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロダクションプリント(PP) ■ 産業印刷(IP) ■ マーケティングサービス(MS)
ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヘルスケア(HC) ■ 医療IT(HIT)
産業用材料 ・ 機器事業	産業用光学システム
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計測機器(MI) ■ 映像ソリューション(IS)
	材料・コンポーネント
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 機能材料(PM) ■ 光学コンポーネント(OC) ■ IJコンポーネント(IJ)
■ 新規事業：バイオヘルスケア(BHC)、ワークプレイスハブ(WPH)、状態監視、QOLなど	
コーポレート他	



新セグメント（現行）	
デジタルワーク プレイス事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフィス(OP) ■ ITサービス・ソリューション(ITS) ■ ワークプレイスハブ(WPH)
プロフェッショナル プリント事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロダクションプリント(PP) ■ 産業印刷(IP) ■ マーケティングサービス(MS)
ヘルスケア 事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヘルスケア(HC) ■ プレジジョンメディシン(APM)
インダストリー 事業	センシング
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計測機器(MI)
	材料・コンポーネント
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 機能材料(PM) ■ 光学コンポーネント(OC) ■ IJコンポーネント(IJ)
	画像IoTソリューション
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 画像IoTソリューション(IIS) ■ 映像ソリューション(VS)
コーポレート他、QOL	

■ 基盤事業 ■ 成長事業 ■ 新規事業

20年度 3Q 業績 | 事業セグメント別売上高と営業利益 (旧セグメント)



【億円】

売上高	2020年度		2019年度		前年		為替影響を		2020年度		QoQ
	通期	通期	同期比	同期比	除く前期比	除く前期比	3Q	3Q	同期比	除く前年同期比	
オフィス事業	3,339	4,122	△ 19%	△ 18%	1,240	1,390	△ 11%	△ 10%	1,159	+ 7%	
プロフェッショナルプリント事業	1,188	1,587	△ 25%	△ 24%	453	554	△ 18%	△ 17%	417	+ 9%	
ヘルスケア事業	555	632	△ 12%	△ 10%	200	181	+ 10%	+ 12%	191	+ 5%	
産業用材料・機器事業	784	829	△ 5%	△ 5%	295	269	+ 10%	+ 10%	256	+ 15%	
産業用光学システム	243	225	+ 8%	+ 9%	90	80	+ 13%	+ 14%	80	+ 13%	
材料・コンポーネント	541	604	△ 10%	△ 10%	205	189	+ 8%	+ 9%	176	+ 17%	
新規事業	279	294	△ 5%	△ 4%	113	99	+ 14%	+ 16%	91	+ 24%	
バイオヘルスケア	181	224	△ 19%	△ 17%	82	77	+ 5%	+ 10%	59	+ 39%	
その他	98	70	+ 39%	+ 39%	31	22	+ 43%	+ 41%	32	△ 4%	
コーポレート他	4	6	△ 31%	△ 35%	1	2	△ 38%	△ 40%	2	△ 27%	
全社合計	6,149	7,470	△ 18%	△ 17%	2,302	2,495	△ 8%	△ 7%	2,115	+ 9%	

営業利益 (右側：営業利益率)	2020年度		2019年度		前年		為替影響を		2020年度		QoQ	
	通期	通期	同期比	同期比	除く前期比	除く前期比	3Q	3Q	同期比	除く前年同期比		
オフィス事業	0	0.0%	226	△ 100%	△ 97%	53	4.2%	54	△ 3%	△ 24%	23	-
プロフェッショナルプリント事業	△ 88	△ 7.4%	50	-	-	△ 0	△ 0.1%	29	-	-	△ 17	-
ヘルスケア事業	4	0.8%	6	△ 27%	+ 20%	10	4.8%	2	+ 380%	+ 374%	6	-
産業用材料・機器事業	121	16.1%	154	△ 21%	△ 19%	56	21.4%	56	△ 0%	+ 3%	32	+ 75%
新規事業	△ 172	-	△ 148	-	-	△ 49	-	△ 38	-	-	△ 58	-
コーポレート他	△ 111	-	△ 181	-	-	△ 37	-	△ 52	-	-	△ 38	-
全社合計	△ 246	△ 4.0%	106	-	-	33	1.4%	51	△ 36%	△ 56%	△ 52	△ 163%

・**複合機（MFP: Multi Functional Peripheral）スピードセグメント：デジタルワークプレイス事業**

Seg.1 ～20枚機、Seg.2 21-30枚機、Seg.3 31-40枚機、Seg.4 41-69枚機、Seg.5 70～枚機（A4縦、分速）

・**Workplace Hub（WPH/ワークプレイスハブ）：デジタルワークプレイス事業**

当社が提供するエッジIoTプラットフォーム。複合機にサーバーを搭載して、現場（エッジ）でリアルタイムでデータを分析、パターン可視化し、ITインフラ管理コストの削減、ビジネスプロセス効率化に役立つソリューションを提供。人とデータを結び付け、オフィスでの意思決定や問題解決の支援をよりスマートに実現する。

・**カラープロダクションプリント機セグメント：プロフェッショナルプリント事業**

ELPP（Entry Light Production Print、月間印刷量10-30万枚、主に大企業の集中印刷室向け低価格帯商品）

LPP（Light Production Print、月間印刷量10-30万枚、商業印刷向け商品）

MPP（Mid Production Print、月間印刷量30-100万枚、商業印刷向け商品）

HPP（Heavy Production Print、月間印刷量100万枚以上、商業印刷向け商品）

・**X線動態解析：ヘルスケア事業**

X線画像を連続的に撮影することで患部の動きを観察することができより詳しい診断を可能にする装置およびシステム

・**infomity：ヘルスケア事業**

医療機関の診療を様々なかたちで支援するICTサービスプラットフォーム。複数の医療機関で撮影画像やレポート内容などの診察情報を共有できる「連携BOXサービス」、読影依頼をする事が出来る「遠隔読影支援サービス」などを提供。

・**CARE Program：ヘルスケア事業**

遺伝性乳がんハイリスク群の効果的な拾い上げと遺伝子診断に関わるトータルサポートを行うプログラム。

・**CARE for COVID：ヘルスケア事業**

COVID-19の感染拡大を予防する健康管理プログラム。AI Chatbotによるカウンセリング、PCR検査、遠隔医療の提供により従業員や市民の安心と安全を提供する。

・**SANUQI：インダストリー事業**

ディスプレイ用の電子デバイスの構成部材として使用される、新樹脂フィルムの商標。



KONICA MINOLTA

- **本資料の記載情報**
本資料におきましては、四捨五入による億円単位で表示しております。
- **将来見通しに係わる記述についての注意事項**
本資料で記載されている業績予想及び将来予想は、現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績が異なる場合があることをご承知おき下さい。